

知恵遅れと知識おくれ

ある住職のはなし。

「うちの子のことを、世間では知恵おくれというが、うちの子の知恵はおくれていないんだよ」
その子は、三人兄弟の真ん中で、お兄ちゃんと妹がいない時に、その子にお菓子をやっても、絶対に食べようとしない。お兄ちゃんと妹が帰ってくるまで待っているんだ。

ある時、三人兄弟にケーキが、二つしかなかったことがある。母親は、どうしても真ん中の子をえこひいきする。真ん中の子に一つのケーキをやって、お兄ちゃんと妹は、一つを半分こにして食べさせようとした。真ん中の子は、口はきけないので、自分の前に置かれたケーキをじっと見つめたまま、食べようとしない。

どうして食べないのだろうか。お腹をこわしているわけでもないのに、と母親は不思議に思ったが、そのうち、ハッと気がついた。母親は、真ん中の子の前に置いたケーキを半分に切り、母親がその半分を食べ始めた。すると、真ん中の子は、半分のケーキを喜んで食べた。

「よその子が、兄弟のケーキを見較べて、お兄ちゃんのケーキのほうが大きいとケンカをする。うちの子は、そういう知恵は発達していないけども、お兄ちゃんと妹がケーキを半分しか食べられない時、自分だけまるごとひとつのケーキを食べてはいけけないという智慧は持っているんだよ。だから、うちの子は、世間でいう知恵とは違う智慧を持っているんだ。うちの子が遅れているのは、知識だけだから、知識遅れと呼んで欲しい。」

「お釈迦様とお金」 p200 ひろさちや 毎日新聞社 1500円 からの引用

競争に関する(四つの)迷信がある

競争は避けられないのだという迷信。

文化人類学者が言うように、競争概念を全く持たない文化がある。

競争は生産性を高めるとの迷信。

競争型の社会をつくと他人の技能や経験が活用できなくなる。

皆、自分の知識を私蔵してしまい、ノウハウが全然使えない。これは、競争のデメリットである。

以下 略

アルフィー・コーン 「争いはやめよう」(1986年)

年 組 番 名前 ()

宗教科